

保育の質の向上研修ニュース

発行日 平成27年1月 日
発行者 舞鶴市（子ども未来室）

12月11日 保育のリーダー研修

参加保育園13園

今年度最後の研修は、各園の保育現場のキーマンともいえる副園長、主任を中心とした先生方に多く参加していただき、意見交換を中心に研修を実施しました。時間が足りず、十分な討議はできませんでしたが、各園が今抱えている課題や共通する悩み等が出されました。

また、各園の先生方が学んだことを実践しようと日々奮闘されていることや、ドキュメンテーションを書くことで保育を可視化し、発信しようとしていることや、保育の振り返りをされていることも感じることができました。子どもや保護者、保育士の先生方の変化も聞かれ、少しずつですが、研修の成果も確認することができました。

北野先生からは、保育の中心となるリーダーの先生へ具体的な指導の仕方等もアドバイスいただきました。今後も、このように各園のリーダーが集まり、保育を語り合う機会を多く持ち、保育の様々なヒントや方法を情報交換することで互いに質を高め合っていくようにとの指導もいただきました。

永福保育園
岡田保育園
さくら保育園
タンポポハウス
平保育園
なかすじ保育園
東山保育園
ルンビニ保育園
中保育所
東保育所
東・南・西乳児保育所



ドキュメンテーション報告：なかすじ保育園 西乳児保育所より

行事は、子どもの興味、関心にもとづいていて、育ちに必要なものであるべき。
その年のクラスや個々の子どものために考えてしているという発想を保護者に発信することが大事。

- ◎自己主張と自己主張でいざこざが起きるがその中で思いを通した経験や、我慢した経験が自己抑制につながる。自己抑制を体験的に学んでいくことが大事。
- ◎小さい頃の親との愛着関係があって、自己主張ができるようになる。自己主張を存分に自己抑制ができるようになる。
- ◎自己主張や子ども同士のいざこざが、その先の発達にどうつながっているのかを保護者に知らせていく。

- ◎乳児は、言葉が多弁ではないので、行為から興味、関心をくみ取ることが大事。
- ◎行為の連続性は抽出するポイントになる。遊びに没頭している姿を拾い、興味関心を見つけ、予測していく。
- ◎さわり心地、物の素材、動きがある、色がある等、乳児期には五感の刺激とかかわることが大切。
- ◎行事に対する保護者のとらえ方を変えていく必要がある。行事は子どもの興味、関心に基づいていて、育ちに必要な物であるべき。

- ◎作品展は自由さ、自分らしさがたくさん表現されているとよい。
- ◎まとめの書き方は、活動全体で何が育ったかをトピック的に書く。一つのストーリーの中にいくつかの展開がある（葛藤→工夫→発想→達成）と見やすい。

各園から成果と課題の報告

研修を受けてきて、どのような成果があったか？何に困っているか？を各園から報告いただきました。その中から、共通する課題をあげて、意見交換すると共に北野先生にご指導いただきました。

遊びの中の学びを見とること、発達の視点で見ることの大前提に子どもを知りたい、わかりたいという気持ちがあって保育をする。保育には唯一無二の正解があるわけではない。悩みながら探求することが保育の醍醐味である。
自分を高めるために保育を公開してほしい。

～北野先生コメントより～

<成果>

- ◎ドキュメンテーションを作成する中で子ども達の活動、遊びをよく見るようになり、子どもたちが今何に関心を持ち、何を感じているかということに気づけるようになった。
- ◎自分たちの保育を見つめ直す機会となった。
- ◎子どもの姿を見たり、待ったり、子どもの声をより聞こうとするようになった。
- ◎複数担任で共通意識を持つため、活動について話す時間が増えた。クラス内での共有からクラスを超えての共有もしている。
- ◎保育や子どものことを職員間で語ることが増えた。
- ◎ねらいや発達を意識して活動内容を

- 考えるようになった。
- ◎主体性を大切にすることで、保育士の話を待つのではなく、子どもから、〇〇やりたい、したいと言えるようになり、させてあげると生き生きとしている。
- ◎自分の心の中の気持ちを表現する子が増えた。子どもが発する言葉が変化してきた。
- ◎子ども達に考える力、調べる姿勢が身についた。保育でもそのような機会をもうけるようにした。
- ◎公開保育で遊びの振り返り場面を見て、大切に気づき、振り返りをするようにしている。
- ◎行事のアンケートや参加態度等から、保護者の行事に対する意識が変わってきた

ことを感じる。また、それが保育士の達成感につながる。

<北野先生より>

- ◎先生方の保育や子どもを見る視点に変化があり、保育士間で共有できていることは大きな成果である。
- ◎遊びの中の学びを見とること、発達の視点で見ることの大前提に子どもを知りたい、わかりたいという気持ちがあって保育をする。その姿勢は子ども達に伝える。
- ◎保育には唯一無二の正解があるわけではない。でも悩みながら探求することが保育の醍醐味である。
- ◎自分を高めるために保育を公開してほしい。



<各園より>

- ◎全職員での共通理解の難しさがある。
- ◎クラス内だけでなく、他のクラスとも話をしたり、連携をとって保育をすすめてい

課題 「保育士間の共有」

→「どうしてそうしたいの？」なぜその取り組みなのか、主任が問いかける。考えるチャンスを作る 主任が保育士同士をつなぐ

きたい。意見交換、園内研修の必要性も感じている。

<討議・事例>

- ◎朝礼でその日の保育について話す時間を持っている。
- ◎職員会議で、今月の子どものトピックスを言うようにしている。子どもをよく見て考えていないと言えない。

<北野先生より>

◎行事等取り組みの内容について「どうしてそうしたいの？」と主任がやさしく問いかけることで担任の意識が変わる。思いがあつて決めているのかどうか、保育士が考えるチャンスを作ることが主任の仕事。

◎主任はクラスを超えてつないでいく。横が見えるようになると園全体の方向も良くなっていく。

課題 「子どもを主体とした行事にするために」

→〇〇してくれる、与えられることが当たり前意識を保護者に育てない 考える力をつけるためには、子どもといっしょにつくる保育・行事に！見直していく

<各園より>

- ◎行事の当日の成果ではなく、過程を保護者に伝えたいが伝える難しさを感じる。
- ◎出来栄や上手さを意識している保護者にどう理解してもらおうかが難しい。
- ◎これまで行事が多く、変えていこうと減らしたが、保護者からどうしてしてくれないのかという声が多い。

<討議・事例>

- ◎運動会の幼児の踊り場面で普段からいっしょに踊っていた乳児が、自分たちから前へ出てきて、踊りに参加する姿があつた。全員で楽しむことができて、とてもよい雰囲気になった。
- ◎藍染に興味を持ち何度も染めて楽しんでい

た姿から、染めたハンカチを運動会の旗に使用した。そのことで子どもたちのやる気につながった。日々の遊びが行事につながった。

◎リレーは子どもが楽しめるものに内容を変えたが、見栄えが悪く保護者に不評だった。今後保護者にどうやって理解を求めるか考えていく。

◎テントウムシ、忍者等子どもの興味から行事につなげている。

◎音楽会では毎年職員が楽器の出し入れや放送をしてきたが、年長の子からしたいと声が上がりに行った。時間もかかるが頑張っている姿を見てもらえ、保護者からも好評だった。

<北野先生より>

◎〇〇してくれる、与えられることが当たり前という意識を保護者の中に育てることは子どもにとっていいモデルではない。

◎本来は、保育、行事は今の子どもの興味関心にあつたもの、育てたい内容であるべき。

◎考える力をつけるためにも、子どもといっしょにつくる保育・行事にしてい

ことが大事。
◎保護者に行事をなぜしないかと言われたら、行事についてどう考えているのか、発達的にはどう考えているのか等、説明したい。また、保護者にも、その考えを聞いてみてもよい。

課題 「保護者への発信の方法について」

→ドキュメンテーションはお便りにして配布してもよい。

<各園より>

- ◎保護者の中にも理解してくださる方とそうでない方に分かれる。理解を深めてもらうにはどうすればよいか。
- ◎忙しくされていたりやバス登園のため、ドキュメンテーションを見てもらえない保護者もある。

<討議・事例>

- ◎行事までの活動をどの領域に当てはまるか意識してみて、ドキュメンテーションにして保護者に知らせた。
- ◎「こんな活動があつてこんな発達

があるからこの曲にした」と保護者にも経緯がわかるように見どころのお知らせプリントを配布したり、子どもが歌詞の情景やイメージを思い描きながら歌っているので歌詞プリントを配布したりした。

◎行事のアンケートの様式も変え、「我が子ががんばったことを書いてください」等具体的に書いてもらえるようにした。アンケートの返し方も、保護者が感じられたことが保育士の言葉を通して、育ちと気づきにつながるように、返し方を工夫しようとしている。

<北野先生より>

◎保護者の変化に期待をもつ、変化の目標を持つ

◎保護者のドキュメンテーションの見方が変化していく。我が子の顔にばかり着目していた印象評価(かわいい、楽しそう)から、保護者が得た知識、感情、技術のことを話すように変化していく。

「こんなことが遊びの中で育つなんて知りませんでした」等、保護者自身が変化することで、家庭教育も変化していく。

◎ドキュメンテーションはお便りにして配布してもよい。

保育の質を高めるためには…書くこと、公開すること。

ただ…いい記録を書けるようになるのではなく、いい保育をすることが研修の目的である

ドキュメンテーションを書く際に、「5領域でとらえる」「発達の視点をいれる」ことを北野先生からご指導をいただいておりますが、なかなか難しいとの声があがっています。

書くことは、繰り返し書くことでしか上達しないとも言われていますが、発達や5領域のヒントは「保育指針」の中にたくさん入っています。語彙的にも助けになってくれると思います。ぜひ、片手に保育指針を持ち書いてみてください。

先生からは、**保育の質を高めるには、「書くことのカベ」と「公開することのカベ」をなくしていくことが必要**とのお言葉もいただきました。

プロジェクト型
保育推進事業
～保育の質の
向上研修～がフ
レーベル館『保
育ナビ12月号』
に掲載されまし
た。

